3
March 2015
No.707

熊歯会報

Kumamoto Dental Association

熊本県歯科医師会

力走する渡辺洋会員

CONTENTS

- 巻頭言（常務理事　八木 義博） …… 3
- 理事会報告 …… 4
- 委員会報告 …… 8
  （医療対策、センター・介護、総務・厚生・医療管理）
- 航跡 ～熊本県歯科医師会の歩み～ …… 13
- 特集 ～熊本城マラソン2015～ …… 15
- 国保報告 …… 17
- 郡市会報告 …… 19
  （人吉市、下益城郡、山鹿市、玉名郡市、荒尾市、天草郡市）
- 新入会員 …… 24
- 会務報告 …… 24

― 歯科医師の倫理綱領 ―

われわれ歯科医師は、日頃より歯科医学および歯科医療の研鑽を通じて培った知識や技術をもって、人々の健康の回復と疾病の予防のために貢献するものである。

一、専門職として歯科医学と歯科医療の発展のために尽くし、医療倫理の実践に務める。

一、専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める。

一、自己の知識、技術、経験を社会のために提供し、社会福祉および国民の健康向上のために努める。

公益社団法人　日本歯科医師会

表紙に寄せて

一番最初に目に留った力走する渡辺洋会員です。3時間42分3秒、総合順位1087位（8807人中）で走り抜けられました。

（H.K）

ラグビーW杯

常務理事　八　木　義　博

国立競技場が建て替えられ、新競技場の完成予定は2018年だそうです。これはもちろん、2020年の東京オリンピック開催に向けてということになりますが、その前、2019年開催の第９回ラグビーW杯日本大会でおそらくメイン会場として使用されるであろうことを皆さんご存知でしょうか。

ラグビーW杯は４年に一度開催される「ラグビー世界一決定戦」で、約100カ国から勝ち上がった20チームが参加し、予選リーグと決勝トーナメント全48試合を戦います。世界的にはオリンピック、サッカーW杯に次ぐ三大スポーツイベントと言われています。1987年に第１回大会がニュージーランド・オーストラリアで開催され、今年９月にはイングランドで第８回大会が開催されます。日本代表は過去７大会すべてで地区予選を突破し、連続して本大会に出場しています。しかし、その全成績は１勝21敗２分で、世界の壁は厚いと言わざるを得ない状況です。

一方、国内の壁として人気という側面が存在します。私は大学の６年間、弱小チームでしたがラグビーをしていました。その当時（1980年代）国立競技場を満杯に出来るのは、大学ラグビーの好カード（早明戦など）と日本選手権で、選手権には毎年のように足を運んだものでした。しかし、その後のラグビー人気の凋落はご承知のとおりで、男女W杯を始めとする熱狂的なサッカー人気とは圧倒的な差がついてしまいました。日本では1993年にＪリーグがスタートし、世界のラグビー界は1995年を境に、プロ化に大きく舵を切りました。プロ化の是非はともかく、この差の最大の原因は、将来の不安を感じながら、座して何の新たな取り組みを起こさなかったことであったと思えてなりません。新たな取り組みには苦痛が伴います。しかし、取り組んでみて結果が良くなければ、反省を踏まえ、修正して先に進むことが出来たはずです。

現在、県歯会は医科歯科連携事業を始めとして各種の新たな取り組みを行っています。これは会員の方にもある程度の負担を強いることになるかもしれません。将来の歯科界のために、取り組み、反省し、修正しながら進んで行きたいものです。

とはいえ、ここ数年ラグビー界にも明るい希望の光が見え始めて来ています。2012年にオーストラリアのエディー・ジョーンズ氏がヘッドコーチに就任し、協会のテコ入れもあり、着実に強くなって来ています。因みに、日本代表の現在の世界ランキングは10位で、加盟国数の差こそあれ、サッカー日本代表のFIFAランキング55位（２月現在）と比べても、今年のW杯ロンドン大会、４年後の日本大会に大きな希望が持てる状況です。さらに、熊本（うまかな・よかなスタジアム）は４年後の開催都市に立候補しています。ラグビーに対して、少しでも関心を持っていただければ幸いです。

理事会報告

臨時代議員会にむけて

― 第21回理事会 ―

２月25日（水）午後７時より県歯会館第１会議室において浦田会長他牛島常務理事を除く全役員、伊藤学院長、また代議員会より中村議長・市原副議長出席のもと、議事録署名人を久々山、西野両監事、浦田会長として第21回理事会が開催された。

１．開会：小島副会長
２．挨拶：浦田会長

本日は代議員会の議長、副議長にご出席いただき、主に３月の臨時代議員会の内容を審議していただきます。地域医療介護総合確保基金の中の大きな目玉でありました在宅歯科診療器材整備事業については、約70名の先生方から約5900万円の申請を出していただき、現在、県庁の方で補助金交付に向けての審査が進められております。最終的に、申請された先生方には県からの補助金交付決定後すみやかに器材を購入していただき、３月下旬に県による確認検査が行われるという非常にタイトなスケジュールとなっておりますが、出来る限り対応・協力していきたいと思います。現執行部の任期も残すところ４ヶ月余りとなりました。執行部の先生方にはいろいろとお世話になり感謝申し上げます。私の至らない点を優秀な先生方に支えられて、２年の任期が満了しようとしています。まだ４ヶ月はありますが御礼を申し上げたいと思います。優秀の優は“やさしい”、“すぐれる”、“まさる”と読んだりもしますし、ゆったりと余裕があるといった意味もあります。「優」という字をよく見ますと「人が憂う」となっています。「憂」という字がまた“うれい”、“なやむ”、“思い煩う”、“苦しむ”、“おそれる”といった読み方をします。「人が憂う」とは、人間はいろいろな経験にあって憂いがなければ人物が出来てこない。何の心配も無く平々凡々に暮らしたのでは優人すなわち優れた人にはなれないという意味だそうです。まさに「優」という字は、憂い、悩み、思い煩い、苦しみを乗り越えて鍛錬されてはじめて余裕、即ちゆったりした落ち着きが出来て、人間的に優れてくることを表しているそうです。先生方は今まで以上に鍛錬されて、優れた人材になっていただくよう切にお願い申し上げます。

３．平成26年度会務報告

（自：１月26日～至：２月22日）

本会総務：理事会、常務理事会、糖尿病・歯周病医療連携研修会、社会歯科学研究会冬季研修会、都道府県会長会議

学　　術：県歯科医学大会

社会保険：個別指導対策社保説明会

地域保健：生活歯援プログラム

広　　報：会報締切日

学校歯科：日学歯加盟団体長会

医療対策：医療相談苦情事例報告

センター・介護：在宅歯科医療研修事業、障がい児（者）口腔ケア地域リーダー育成事業、介護者歯科実技研修事業

総務・厚生・医療管理：がん連携事業、病診連携事業、都道府県医療管理担当理事連絡協議会及び歯科衛生士復職支援対策連絡協議会

学　　院：一般一次入学試験

国保組合：国庫補助金

以上、各担当役員より報告がなされた。

４．報告事項：

１．表彰

・熊本県知事表彰　勇 励　会員（天草郡市）

表彰式：３月11日(水)　於：県庁新館

２．退会会員

・故　岩本 將嗣　会員（第１種会員／上益城郡）１月24日ご逝去（55歳）

・故　吉良 直衛　会員（終身会員／熊本市）　２月15日ご逝去（95歳）

３．会館４階床の補修

床タイルの盛り上がりが発生しており、岩永組へ補修を依頼した。

４．平成27年度歯科保健関係予算案の主要事項

8020運動推進特別事業と口腔保健推進事業が統合・拡充され、歯科保健医療の充実・強化が図られることとなった。

５．ＢＰ薬剤の起因による顎骨壊死の調査依頼

２月16日付で送付したアンケートの記載内容に一部誤りがあったため、２月27日付でお詫びとともに記載内容を訂正したアンケートをあらためて送付する。

６．本会終身会員

（平成27年度より種別変更）

条件：70歳以上、在籍30年以上

緒方　　進　会員（熊本市）、
千場 正昭　会員（熊本市）、
後藤 俊一　会員（熊本市）、
北　　克巳　会員（熊本市）、
北野 正民　会員（荒尾市）、
多田隈 裕　会員（荒尾市）、
小嶋 立州　会員（山鹿市）、
工藤 晃正　会員（菊池郡市）、
浜﨑 献作　会員（天草郡市）、
蓑田 哲哉　会員（天草郡市）

計10名

７．日歯終身会員

条件：75歳以上、在籍35年以上　但し経過措置あり

片山 幹夫　会員（熊本市）、
岡田 知久　会員（熊本市）、
菅原　　洋　会員（熊本市）、
牧野 敬美　会員（熊本市）、
中野 敬輔　会員（宇土郡市）、
工藤 紘喜　会員（玉名郡市）、
矢毛石陸男 会員（上益城郡）、
中津留　豊 会員（八代）、
田崎日出夫 会員（天草郡市）

計９名

８．80歳以上の終身会員（本会会費・負担金免除、日歯福祉共済保険料納付義務終了）

上田 隆一　会員（熊本市）、
出口 瑞男　会員（熊本市）、
本田 治夫　会員（熊本市）、
犬塚 隆雄　会員（八代）

計４名

９．事業企画

ケイ・デー・エム・ユー：『経営セミナー』

（５月23日と９月12日開催予定）

10. フッ化物洗口説明会用資料変更に係る会員通知

資料の変更について、２月16日付で会員へ通知した。

11. 会計１月末現況
12. その他
○会員からの機器の寄贈
伊藤 明彦　会員（菊池郡市）より、２月12日にパノラマレントゲン装置が寄贈され、口腔保健センターへ設置した。
○熊本歯科衛生士専門学院非常勤講師服務内規の一部改正
伊藤学院長より、４月から講師の定年制（70歳）を設けることに伴い非常勤講師服務内規を一部改正した旨の報告がなされた。
○保険の解釈・取り扱い
中嶋副会長より基金の審査会における保険の解釈・取り扱いについて、田中理事より医科歯科連携時の算定時の注意点について報告がなされた。

５．連絡事項：
１．平成27年度年間行事予定
２．３月行事予定

６．承認事項：
１．新入会員の承認〔承認〕
吉永 恵理佳（第３種）計１名の入会を承認した。
※26年度入会状況（２月末現在）…第１種・17名、第２種・７名、第３種・16名
２．関係機関・団体からの役員等の推薦依頼〔承認〕
・生活保護医療扶助業務に従事する歯科嘱託医／県健康福祉部長寿社会局社会福祉課
西野 隆一　監事　任期：平成27年４月１日～平成28年３月31日
３．名義後援使用依頼〔承認〕
・第１回ドクターサーチくまもと健康セミナー／熊本朝日放送株式会社
・第９回日本禁煙学会学術総会／くまもと禁煙推進フォーラム
・「フォーラム がんと生きる ～こころとからだ 私らしく～」／ＮＨＫエンタープライズ
４．熊本県介護実習・普及センター連絡会の出席者〔承認〕
八木常務理事が出席することを承認した。
５．会員からの会費・負担金減免申請の承認〔承認〕
申請基準を満たしているため、会費・負担金を免除することとした。

７．議題：
1. 平成26年度在宅歯科医療連携室整備事業〔承認〕
事業に従事する職員の人件費が県より２分の１補助となっているが、本会からも定額の２分の１を上乗せすることも視野に入れて、事業に即応出来る歯科衛生士を雇い入れることを前提に求人を行うこととした。
２．次年度以降のレセプト台紙の取り扱い〔承認〕
27年度までは全会員医療機関分を作成・配布し、28年度以降は希望医療機関にのみ配布や販売する方向で次期にあらためて検討することとした。
３．外部団体からの会館利用事前申込み〔承認〕
準備等の都合を考慮し、事前申込みを受理することとした。
４．平成27年度会計収支予算書（案）〔承認〕
原案どおり承認し、３月の臨時代議員会に議案として提出することとした。
５．平成26年度熊本県委託事業に係る予算〔承認〕
障がい児（者）口腔ケア地域リーダー育成事業予算明細書について、原案どおり承認した。
６．平成26年度会計収支補正予算書（案）〔承認〕
原案どおり承認し、３月の臨時代議員会に議案として提出することとした。なお、地域医療介護総合確保基金事業の26年度委託費が３月の理事会までに確定すれば、新たな補正予算案を提出することとした。

7．平成26年度臨時代議員会日程資料〔承認〕
　原案どおり承認した。

8．平成26年度臨時代議員会会務報告〔承認〕
　一部修正し承認した。その他追加・訂正があれば、3月第1週までに事務局へ連絡することとした。

9．旅費及び日当支給規程一部改正（案）〔承認〕
　原案どおり承認し、4月より施行することとした。

10. 旅費及び日当支給に関する内規一部改正（案）〔承認〕
　原案どおり承認し、4月より施行することとした。

11. 規程及び細則等の一部改正（案）〔承認〕
　原案どおり承認し、4月より施行することとした。

12. 内規の一部改正（案）〔承認〕
　原案どおり承認し、4月より施行することとした。

13. マウスガード製作に関する情報の提供〔承認〕
　県教育長へのお願い文書の送付については、諸般の事情を考慮して今回は見送ることとした。

14. 熊本県後期高齢者歯科口腔健康診査事業の実施に伴う協力依頼及び健診単価等の協議〔承認〕
　原案どおりの方向性で協議を進めていくこととした。

8．協議事項：

9．監事講評：

10. 閉会：中嶋副会長

（広報　加藤　久雄）

委員会報告

各県が抱える問題点や対応を協議

― 九州各県医療安全担当者会 ―

医療対策

10月18日（土）午後２時より佐賀県歯科医師会館において九州各県歯科医師会医療安全対策担当者会が開催され、当県からは冨屋理事、岡田委員長、我那覇委員が出席した。佐賀県歯科医師会　寺尾隆治会長の挨拶、日歯瀬古口精良常務理事の挨拶の後、日歯より以下の報告説明があった。

①　タービン滅菌の件
　新聞記事・テレビ報道の紹介と日歯の対応について説明

②　医療事故調査制度の件
　現在、日歯で協議をしている事

その後、

①　平成26年度九州各県歯科医療安全対策関係事業計画及び予算

②　各県提出協議題

③　日本歯科医師会への要望及び質問

④　統一フォーマットによる要望及び質問

各県が抱える問題点や対応、意見等を紹介し協議検討を行った。

各県提出協議題で熊本県は、認知症傾向にある患者に対する治療に関し、患者家族からのクレームが有り、各県の対応状況をお伺いした。提出理由として、近年、患者の高齢化が進み、中には認知症傾向にある患者も多々見受けられ、認知症患者からの治療方針決定に対するクレームが発生している。歯科受診する認知症傾向のある患者に対する情報提供が無い場合は、一層見極めが困難であるのが実情である。家族の認知症存在に対する認識が薄い場合は、なお困難を極める状況にある。今後高齢化がさらに進むという明らかな現状を踏まえ、ケアマネジャーとの連携も含めて、対応方法を具体的に各県が会員に対し情報提供をされていれば、ご教示頂きたいとした。

それに対して各県担当者は、認知症患者に対する対応に苦慮している回答があったが、

苦情・医療事故・紛争・訴訟を限りなく「０」に

福岡県は、委託弁護士との連携を図り、患者に分かりやすい説明を行い、同意書を取り付け、理解力に相当な疑念がある場合には、親族同席を求めて、重々説明をした上で治療するとの回答があった。長崎県では、心身歯科治療の専門家から、対応が難しい患者さんに対しての関わり方を学び理解を深めているとの回答があった。また、鹿児島県の提出協議題にも認知症患者自身からのクレーム対応があり、それに対し本県では、まだ認知症患者本人からのクレームの報告はない。しかし、おそらく存在していると考えられ、その対応として、高齢者の生活全般に関する相談を受ける窓口が地域包括支援センター等に開設されている。患者の認知症の兆候に気付いた時は、可及的速やかに相談することが肝要であると考えている。また、ケアマネジャーとの接触をしていない患者も見受けられるので、行政との連絡を取り、認知症症状の存在を報告し、独居者に対する行政の目を向けさせる接触を図ることが望ましいと考えている。認知症独居老人が、付き添いもなく、診療に来るケースは、当県においては報告は受けていないが、治療に当たっては、同居している家族があれば連絡を行い理解を得る必要があると思われ、行政への相談を行う事が望ましいと考えていると回答した。

今後の高齢化社会において、認知症の問題は避けて通れない課題で、トラブルの発生が増えてくると予想される。この問題に対して理解を深め、患者により良い医療を提供していく必要を感じた。

当委員会の目標は、苦情・医療事故・紛争・訴訟を限りなく「０」に近づける事である。担当者会においても各県とも協議の主眼であると思われるが、活動は個々の事例に対し、対応するのみに終始し、その多様性の協議を行っているのが現状である。

しかし次回開催県である、熊本県歯科医師会医療対策委員会は、患者からの相談・苦情、歯科医師からの相談・苦情に対して、独自のシステムで対応している。事務局への電話相談・苦情から各委員への対応の流れ、そして各委員が個別に対応して、傾聴と適切な助言を与え、極力、患者と歯科医師のわだかまりを解き、相互理解と信頼へとつないでいる。また、残念ながら賠償や訴訟にまで行く事例でも、今一度立ち止まり、問題の本質に迫り、患者と歯科医師にとって最善の道を求め、専門家と連携をしながら適切な対応を行っている。その熊本メソッドを次回各県担当者会において主要な伝達事項として協議に取り組んで行く予定である。

（医療対策　我那覇生純）

お知らせ

定期発送物の発送回数変更のお知らせ

会員の皆様への定期発送物の発送回数が、下記のように変更となりました。なお、緊急を要する情報はＦＡＸにて対応することとし、重要な情報はホームページにも掲載いたします。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

変更内容：発送回数の減数（月２回を１回とする）
実 施 月：平成27年４月～
発 送 日：原則毎月５日

「熊歯会報」の発送は、発送日の変更にともない４月は行わず、５月のみ４・５月合併号になります。その後は原則毎月５日に発送します。原稿締切日については、発送月の前月５日となります。御協力のほどよろしくお願いします。

委員会報告

摂食・嚥下に関わる口腔ケアを目指して

― 九州・山口　口腔ケアシンポジウム ―

センター・介護

1月18日（日）午前9時より、熊本県歯科医師会館4階ホールにて、第7回九州・山口口腔ケアシンポジウムin熊本が開催された。参加者は350名を超え、3階の会場も満席になるほどであり、口腔ケアへの関心の高さが見受けられた。

本大会は、別府口腔保険センター長黒川英雄氏を世話役に、熊本県歯科医師会及び熊本県歯科衛生士会の全面的協力のもと、熊本医療センター歯科口腔外科中島健部長を実行委員長として企画された。牛島常務理事の司会のもと、小島副会長の開会の辞で幕を開けた。まず、『脳からみた摂食行動』と題して九州歯科大学口腔保健学科吉野賢一准教授の基調講演が行われ、脳研究者の立場から、「人の摂食行動には脳の働きが必要で、摂食行動を支援する口腔ケアは脳の働きも支援している」ということを分かりやすく、かつ大変興味を引く内容を盛り込みながらお話し頂いた。

特別座談会『口腔ケアの必要性～それぞれの立場から～』、ランチョンセミナー『日本の医療を口から変えよう～Acute Stroke Careにおける口腔ケア・経口摂取訓練～』、シンポジウム『誤嚥性肺炎を起こさないための口腔ケア』とつづき、初回からの課題である「地域医療連携、他職種連携」のさらなる発展を目指した「摂食・嚥下」、そして急性期、回復期、維持期、各職種との口腔ケアなどがテーマに則して進められた。医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・理学療法士・言語聴覚士・社会福祉士・介護福祉士それぞれの職種、病院の担う急性期、回復期、維持期、ステージにより、それぞれの立場からの役割、考察、提案の発表があった。これから益々、「口腔ケア」をキーワードに他職種連携及び地域医療連携の充実、必要性について考えさせられる内容であった。

会場は満席で口腔ケアへの関心の高さが見受けられた

「口腔ケア」は、歯科疾患の予防を目的にしたものから、口腔機能（摂食、咀嚼、嚥下、構音、顔貌の形成）を健全に維持するものとして発展し、生活の基礎、質を向上サポートするものとして広く医療現場で実施されている。また、生活の質を維持向上させ、生涯にわたり快適に過ごすためには口腔内を清潔に保ち、機能回復を図る口腔ケアは欠かせない。「口腔ケア」を着実に実施するには、全身状態を診ながら、口腔粘膜に状態・変化や口腔粘膜病変の的確な診断を行い、それぞれの疾患にあった適切な口腔ケアプランを立て、各医療機関の役割に合わせ、他職種と連携し実施していくのが大切である。これからの高齢社会へ向けて歯科医師も積極的に取り組むべきと思う内容であった。

最後に、県歯科衛生士会の福本厚子会長より講演発表者への謝辞で、盛況のうちに閉会した。

（センター・介護　本田壮一郎）

委員会報告

地域で医療連携を根付かせるために
医療連携の今、そして未来へ　熊本から全国へ

― 社会歯科学研修会 ―

総務・厚生・医療管理

挨拶される箱崎守男
社歯研会長

2月7日(土)～8日(日)の2日間、熊本県歯科医師会で社会歯科学研修会が行われた。昨年の10月開催予定だったが、台風の接近で順延していた。社会歯科学研究会箱崎守男会長、続いて、熊本県歯科医師会浦田会長に挨拶を頂いて開会した。

挨拶される浦田会長

初日の基調講演は最初に熊本機能病院会長・総院長米満弘之氏より「リハビリテーションの立場からみた歯科医療連携の重要性」について御講演頂いた。米満氏は、故添島義和会員と親友で歯科に理解があり、機能病院を開設される時から歯科をつくられたとの事だった。整形外科の専門でおられる為、リハビリテーションに力を入れておられ、歯科だけでなく、多職種連携について御講演頂いた。

リハビリテーションと病院連携について語られる米満熊本機能病院総院長

会場は熱気で包まれた

続いて、角町正勝社会歯科学研究会・角町歯科院長に「地域で医療連携を根付かせるために　リハビリテーション病診連携」について御講演頂いた。

リハビリテーション病診連携について講演される角町正勝氏

初日の最後の講演は熊本機能病院　訪問医療センターの古川由美子氏に「医科歯科医療連携事業の構築と成果」について御講演頂いた。

医科歯科医療連携事業の構築と成果について講演される古川由美子氏

初日の講演後、グループワークが行われた。医師、歯科医師、看護士、歯科衛生士、言語聴覚士、保健所職員、サンスター職員、等様々な職種、日本全国の様々な地域から御参加頂いた。8名ずつ、10グループに分かれて「自分の地域で行っている医療連携について感じる成果・課題」について話し合い、各グループの意見をまとめて発表するという形式で行われた。私も参加させて頂いたが、ほとんど、初対面の人と何を話していいのか、話が盛り上がるのか不安だったが、蓋を開けてみると、どのグループも活発な意見が出て、時間が足りない程であった。職種や地域で様々な意見が出たが、医療連携をする為には、異

8名ずつ10グループに分かれてディスカッションを行った

グループワークでは活発な意見交換が行われた

職種をつなぐ、キーパーソンが必要であると言う意見が多く聞かれた。

その後、懇親会が行われた。お酒が入るとここでも、かなり突っ込んだ意見交換が行われた。

がん連携体制構築の過程と実績および問題点について講演される牛島隆常務理事

２日目は牛島隆常務理事の「がん連携体制構築の過程と実績および問題点」の講演で始まり、熊本赤十字病院血液・腫瘍内科吉田稔部長の「医科歯科連携　地域がん連携拠点病院の役割」、済生会熊本病院外来管理室、がん化学療法看護認定看護士東小織氏の「済生会熊本病院における医科歯科連携の取り組み～１年間の実績と課題～」、熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター古川昇准教授の「熊本県における糖尿病医療連携」、田上大輔常務理事の「プリシード・プロシードモデルの視点での糖尿病・歯周病医療連携」、熊本県歯会地域保健委員会小田哲也委員の「熊本県早産予防対策事業における歯科的な介入」、熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学分野大場隆准教授の「歯周病と周産期異常－Kumamoto RAINBOW Project－」の７講演が行われた。

地域がん連携拠点病院の役割について説明される熊本赤十字病院血液・腫瘍内科吉田稔部長

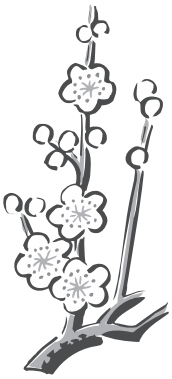
済生会熊本病院における医科歯科連携の取り組みについて講演される東小織氏

両日ご講演いただいた先生方による総合ディスカッションが行われた

その後、御講演頂いた先生方に壇上にあがって頂き、総合ディスカッションが行われた。熊本は、医科、歯科のがん連携、糖尿病連携、周産期連携が進んでいるので、他県の先生から沢山の質問がされた。異業種との医療連携には、キーパーソンが必要であり、キーパーソンとの懇親会等で密なコミュニケーションをとらないといけない。新しい医療連携を構築するには大変な時間と労力、熱い情熱が必要であると思った。

次回開催県である、福井県歯科医師会山本有一郎専務理事の挨拶の後、浦田会長、社会歯科学研究会箱崎会長の挨拶で閉会した。

（総務・厚生・医療管理　小林　聡）



航跡　～熊本県歯科医師会の歩み　その１（明治期１）～

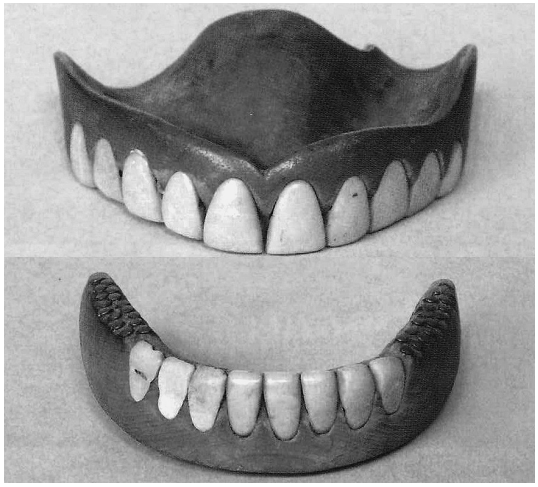
熊本県歯科医師会はやがて設立110年を迎えます。熊本県歯科医師会そして歯科界の先人たちは、雨の日も晴れの日も力強くたくましく110年の歴史を刻んで来ました。私は大学卒業の折に恩師から、過去の歩みをふり返り、自省し、足元をしっかり見つめて生きて行きなさいと「脚下照顧」という言葉をいただきました。先人たちの歩んできた道をふり返り、現在を見つめ直すことで、これからの歯科界の進むべき道が見えてくるかも知れません。

序章　近代歯科医療の夜明け

第１節　私たち現在の歯科医療のルーツはどこなのか？

江戸時代まで医師と歯科医師の区別はなかった。医師には本道（今の内科）、外科、口中科医、眼医、小児医、鍼医がいて、口中科医は口歯唇舌や咽喉頭の疾患の治療を行い、風邪やジフテリアなどの治療もしていたが、義歯（入れ歯）などは作っていなかった。

下級武士や一般庶民の歯科治療は本道、外科や歯医、歯医者、牙医、口中医師、歯薬師などと呼ばれる医師たちが当たっていた。また、こういった医師とは別に全く医師でない、入歯師、歯抜き師、歯痛の薬売り、歯磨き売りなどの香具師（やし）と呼ばれる人たちも歯の治療を行っていた。寺など人の集まる場所には大道商人や香具師が集まり、居合い抜きやこま廻しなどで人を集め、歯痛の薬、歯磨き粉などを売っていた。また抜歯を行い、木床義歯も売っていた。このように、口中科医と香具師とはその発達は異なっており別の系統といえる。



〈江戸期〉入歯師が作っていた「木床義歯」（皇国義歯）（世界で類のない作製法、蝋石の歯を並べてある）
一般社団法人神奈川県歯科医師会歯の博物館所蔵

大政奉還・明治維新と時代は移り変わり、明治政府は従来の医学を廃止し、ドイツ医学を採用する（当時のドイツ歯科医学は後進国）。明治維新以前から、全世界の中でアメリカの歯科医学のみが特異的に発展していたため、日本の近代歯科医学はアメリカ歯科医学の影響を究めて強く受けた。W.C.イーストレーキ（明治元年長崎、横浜開業）、S.G.エリオット（明治３年横浜開業）、H.M.パーキンス（明治7年横浜開業）等の来日により我が国の近代歯科医療の夜明けが来た。

近代歯科医療は、これら外国人歯科医師（主にアメリカ人）に直接師事した人達と口中医で外国人歯科医師からアメリカ歯科医学を習得した人達から始まり、自らアメリカの教育機関で学んできた人達や漢方の口腔医でアメリカ歯科医学を日本で学んだ人達へと広がって行った。

私たち現在の歯科医療のルーツは明治の始めに取り入れられたこのアメリカ歯科医学であり、江戸時代までの歯科とは全く別の系統と言える。

第２節　医科と歯科はどこで二分されたのか？

1874（明治７）年、我が国初の近代的医療制度の基本方針を指向した「医制」が通達された。新制度では全て医師であり、その中で産科、眼科、整骨科および口中科は専門医という扱いとなっていた。医師・歯科医師という身分制度、医業・歯科医業という業務区分もなかった。

1875（明治８）年、小幡英之助は試験科目の「口中科」を嫌い、医制にない「歯科」という名称で東京医学校（東京大学医学部）に

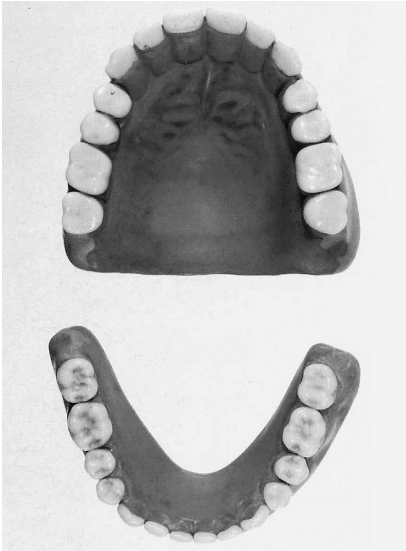
受験したいと願い出た。我が国歯科専門医の第1号である。この時の「口中科」は口中療治のみを対象としていて補綴、充填などを含んでいなかった。フィラデルフィア歯科医学校を出て、歯科技術に深い思いを持っていたS.G.エリオットの所で学んだ小幡には特に歯科専門という強い気持ちがあったのだろう。ただ、「口中科」を嫌い「歯科」で受験し、今日の「歯科」に道を開いたことは偉大であるが、もしこの時、制度どおり口中科専門医の医師の資格のまま受験していたとすれば、今日の歯科医療はいかなる歴史をたどっていたであろうか。

1887（明治20）年代に入ると、医科歯科一元論・二元論の論争がなされた。医学に２つはなく、歯科は医科に加わり一本化すべきとする「医歯一元論」では、歯科医学は医学の一分科であり、医師の資格を得て、その上で歯科診療を行うようにすべきであるという歯科医師の地位向上の本質論を展開した。一方、歯科は発生および特殊性から医科とはあくまで分離独立すべきとする「医歯二元論」では、一般医学をおおよそ学び、その後歯科技術の習得に専念して独自の向上を図るべきであると、歯科の特殊性を強調する実際論を展開した。

当時の歯科医師に対する見方は江戸時代からの、入歯師、歯抜き師などの大道芸人と同一視することが根強く、一般医師の歯科医師に対する差別と軽蔑が多く残っていた。また、産科や眼科は蘭学の影響を受け発達していたが、口中医学への影響は少なくその地位も低かった。

1904（明治37）年、帝国連合医会などの医師の団体は「医師法案」を作成、「医師トハ人体ノ診察治療ヲ為スコトヲ業トスル者ヲ謂ウ。歯科医ニハ本法ノ規定ヲ適用セス」と記載。 この医師側の歯科医師切り捨ての情勢を察知し、大日本歯科医会は歯科医師法草案調査委員会を設け自らの手で草案を作成した。

1906（明治39）年、２月衆議院に医師法案提出。３月大日本歯科医師会は二人の代議士を通じ歯科医師法案を衆議院に提出。５月２日、医師法、歯科医師法ともに公布、10月１日に施行された。これより５月２日は歯科医師記念日となっている。歯科医師の身分、業務、教育を定めた歯科医師法は政府から与えられたものではなく、私塾や徒弟制度から生まれた歯科医師の大同団結が医師法案と競り合いながら自らの努力によって獲得した貴重な闘いの証といえる。



〈明治期〉グッドイヤーが開発した「ゴム床義歯（蒸和ゴムで作製、陶製の人工歯を並べてある）」一般社団法人神奈川県歯科医師会歯の博物館所蔵

【教訓】

110年前に先達が自らの力で勝ち取った歯科という地位にある現在の我々は、プライドを持った責任ある行動が望まれる。医療連携が叫ばれ、歯科医療の重要性が認知されつつある今日、歯科医師は医師や看護師、介護職員など多くの職種と連携（医療・保健・福祉の連携）を深め、単に歯、口を診るだけではなく患者の全身の病気や健康、人生と係わり、「生きる力を支える生活の医療」を実践して行く必要がある。

執筆にあたり、アドバイスいただいた東京歯科大学副学長 石井拓男先生に心より感謝申し上げます。

次回は、学問技術の研鑽、業権の確保、業務の保護のために歯科医師会という組織をつくり、闘った熱い男たちのヒストリーです。

（専務理事　渡辺賢治）

参考資料

引用・参考文献：「スタンダード歯科医学史」、「日歯創立110周年記念誌」、「日歯会史」、「日本と西洋の歯に関する歴史」

特集

熊本城マラソン2015

感　　謝

グラミー賞受賞者のひそみに倣って謝辞を。

沿道で声をかけてくれた、こずえ保育園の皆様（子どもと孫が通っている）、近所の松尾君夫妻、田尻さん、うちのスタッフ野中さん、応援ありがとうございました。20km過ぎで声をかけてくれた増田さん、そろそろきついところで元気が出ました。萱野先生トイレありがとうございました。長先生、レモンおいしかった。早朝わざわざ会館まで来てくれた廣田先生励みになりました。ＡＥＤモバイル隊の皆様、途中途中で声をかけてもらいやる気を増しました（今年は結構繁盛（？）していたようでなにより）歯知ろう会、奥田、小野、宮田、町田、渡辺各先生、自己流の練習でしたが、要所要所でのアドバイスや叱咤がなければ走り切れていなかったと思います、ありがとうございました。また、洋先生のコネがなければスタートラインにも立てなかった、感謝。ともに初挑戦で頑張ってきた竹下先生、ライバルの存在ははげみになりました。

明八橋付近残りニキロ、顔は笑っていますが、ひざから下はボロボロです。

この年になっても頑張れる体に育ててくれた天国にいる父とあいかわらず憎まれ口をたたく元気な母に感謝。娘と孫たちの声援に感謝。そしてこの半年、呆れながらも見守ってくれた妻へサンキューソーマッチ！

（古川　猛士）

メタボ脱出

大学卒業後、運動らしいこともしなかった私が一念発起、きっかけは昨年４月のスタッフと臨んだリレーマラソンでした。（２kmを歩きながらやっとの思いで繋ぎました）

血糖値も高く不健康なこの体型、スイッチが入りました。目標を「熊本城マラソン完走」として、診療後に少しずつ距離を延ばしながら練習してきました。距離は走れる自信はあったのですが、なかなかスピードが上がらず、不安の残るままスタートラインに立ちました。

結果はやはり…ハーフの関門でのタイムオーバーで収容バスに乗る事となってしまい非常に残念でしたが、スタッフは余裕の完走。

大きな宿題を残す形になり、もちろん来年も挑戦します。ちなみに体重10kg減、血糖値も正常範囲となりメタボも脱出できそうです。

皆の願いを背に受けて

（竹下　憲治）

来年も懲りずにリベンジ

熊本城マラソンは２回目で前年は関門ぎりぎりでヘトヘトになってゴールしました。今年こそはと思いにわかランナーがスタートしました。当日は川尻町の熱い応援の街中を駆け抜け、予定の時間もいいペースで来たので去年を大きく上回ると思いました。還暦に花を添えて自慢しようと不心得ながら頭をよぎりました。しかし不肖不心得者にはそんなことは許されませんでした。25キロを過ぎて港に行く直線道路に出ると急に左足がピクピク、すると今度は右足にピクピク。止まった瞬間急に両足こむらがえしになりました。激痛にのたうちまわり、あえなく戦意喪失、撃沈致しました。さっさと尻尾を巻いて退散となりました。残念ですが今回はこの結果でした。がっくりして暗い気持ちで回収車に乗り込みましたら、なんと手ふきとペットボトルの暖かいサービスがあり感激でした。後から続々バスの中は満員になりました。大会はたくさんのボランティアの方が参加活躍されております。歯科医師会からもマラソン部顧問のO先生ほかたくさんの方が参加されてます。こうした方々に対して感謝したいと思います。来年もまた懲りずにリベンジを果たそうと思っています。

（川井　哲雄）

とても楽しめた大会

今年で３度目の参加だが、やはり熊本城マラソンはいい！他のマラソンには無い盛り上がりがある。多くの知り合いの参加や応援、モバイルAED隊の並走。多くの方から力をいただきました。

今大会は右ふくらはぎに違和感を感じスタート地点に立った。痛みが出始めると記録どころか完走もおぼつかなくなってしまうので、とにかくペースを抑えて走ることにした。20㎞すぎからは４時間ペースランナーと並走し30㎞まで走ったところ残りの力を出し切りペースを上げた。しかし実際は前半と同じペースでペースランナーを大きく引き離すことが出来ず、４時間をわずかに切る記録でした。今回お世話になったペースランナー、途中で気づいたのですが走り方に見覚えがある、毎朝

国体道路を走っている時にすれ違うランナーだった。彼と色々話しながら気持ちよく走れたことは収穫でした。自己新記録とはならなかったが、とても楽しめた大会でした。

（小野　秀樹）

国保報告　各組合とも運営に苦慮

― 九歯連協議会 ―

１月17日（土）午後３時レンブラントホテル大分で第１回九歯連協議会が開催された。浦田九歯連副理事長は開会挨拶で、「懸案であった所得水準の高い国保組合の国庫補助金の見直しは、大臣折衝という形である程度の方向性が初めて自民党政権から提示された。詳細についてはまだ不明な所はあるが、民主党政権時の案よりは評価できる。所得額の分類が10万円単位と細かく、所得調査は５年ごとでよいのか等まだ不明な点があるが、我々がどう対峙していくかの方向性が示されたことで、今後しっかり対応していく必要がある」と述べた。長谷九歯連理事長の挨拶に続いて開催県である大分県の長尾理事長から歓迎の挨拶終了後、議長に長尾氏、副議長に許斐氏が指名選出された。

開会挨拶される浦田九歯連副理事長

報告

庶務報告：平成26年１月18日から平成27年１月16日までの会議等。

会計報告：平成25年度九歯連歳入歳出決算、平成26年度九歯連歳入歳出現計。

監査報告：許斐九歯連監事より、平成25年度決算・平成26年度現計に違算は無く適正に処理されている旨の報告があった。

協議

（１）平成25年度各県組合の決算状況

大分県：単年度では1200万円の赤字。準備金は変化なし。

長崎県：歳入では、均等割を甲乙家族ともアップし、所得割の賦課率を6/1000から8/1000に変更し7900万円の増収、国庫補助金は減額。歳出では、保険給付費の中で療養費（主に柔整）が年々増加している。また高額療養費では、100万円超のレセプトが前年度の倍増となり、年々高額レセプトの件数が増加傾向にある。保険料を値上げし、準備金から5000万円を繰入して何とか運営できている状況である。平成20年以降単年度赤字決算が続いて、現在の高齢者医療制度のままでは医療分保険料の引き上げを行わないと運営が難しい。準備金も21年度末には７億円余りあったが、現在は１／３程度までに減少している。

福岡県：単年度決算は、1100万円の黒字であるが、交通事故の第三者納付金が2000万円ほどありかろうじて黒字となった。今後は、前期高齢者納付金も別立ての保険料として徴収する事が検討課題になりつつある。

熊本県：歳入では、保険料はほぼ横ばい、国庫支出金は減少、繰越金は１億４千万円あまり、準備金から7400万円を繰入れた。歳出では、保険給付費は予算内、後期高齢者支援金1600万円増、前期高齢者納付金が初めて1600万円の減、介護納付金と合わせて５億4600万円となり、歳出の48.4％を占めている。単年度決算では、１億3575万円あまりの赤字となり、ここ４年間単年度赤字が続いている。

鹿児島県：単年度決算では、１億459万円あまりの赤字。赤字額が前年より倍増した。準備金については、1400万円の積み増しを行った。後期高齢者支援金・前期高齢者納付金・介護納付

金合わせて歳出の46.4%を占めている。

宮崎県：均等割保険料を値上げし、年度途中に準備金を1000万円繰入する厳しい予算組みとなり、単年度では3200万円あまりの赤字。

佐賀県：単年度決算は、4730万円あまりの赤字。

（2）平成26年度各県運営状況

大分県：保険給付費は月平均が予算を上回っており、かなりの赤字が出るものと予測。高額レセプトが出ているのが原因。

長崎県：平成20年以降、毎年被保険者数が減少している。療養給付費・療養費・高額療養費とも増加している。

福岡県：被保険者数が年々減少、柔整の伸びは抑えられてきたが中には問題のあるレセプトがある。

熊本県：本年度より医療分保険料の均等割額を増額し、また平成21年度に廃止した所得割を復活４/1000で導入し国民健康保険料を約１億5000万円増になる予算組みとなっている。保険給付状況は前年並みだが、年間の保険給付費は一年ごとに増減を繰り返しており、この流れでいくと26年度は増加する予想となり予断を許さない状況。

鹿児島県：今年度入り平等割保険料は、医療給付分と後期高齢者支援金分を別立ての徴収とし事業所得割保険料は１/1000を８/1000に、さらに賦課限度額を40万円から50万円にした。今後は、前期高齢者納付金の伸びが懸念される。

宮崎県：今年度より自家診療の給付制限を行った。前期高齢者の給付費が年々伸びており、高額の前期高齢者納付金になるのではと危惧している。今年度は、単年度で黒字の予想。

佐賀県：前年に引き続き療養休符費・高額療養費の給付が財政を圧迫している。４月から８月までは毎月給付保険者負担額が対前年比100%を超えており、今後の推移が気になる所である。

（3）平成27年度各県予算編成方針

大分県：保険料等変化無し。保険事業についても昨年と同様。

長崎県：医療分保険料は、乙種と家族の保険料を値上げ、支払準備金から１億円の繰入予定。保険事業は変更なし。

福岡県：特に変更なし。保険事業も変化なし。保険者機能の強化として医科・歯科・薬科のレセプト点検を外部委託する。

熊本県：保険料は変更なし。平成26年度より、自家診療でＰの急性期を除き歯周疾患を給付しない事としている。

鹿児島県：平等割保険料と事業所得割保険料を平成26年度に変更したので、変化なし。前期高齢者納付金の急激な増加と定率補助の削減が始まると、保険料の改定の時期を見据えた運営をしていかないといけないと危惧している。保険事業について変更なし。

宮崎県：乙種組合員の自家診療を制限。前期高齢者納付金の額が大きく上下し、予算が立てにくい。

佐賀県：医療給付費分保険料を改正を予定。所得割の算定基礎を診療報酬から医業報酬に改正を検討しており平成28年度より実施予定。保険事業は前年どおり。

提出協議題は無かったが、佐賀県の寺尾理事長が柔整について問題提起され、福岡の松尾常務から解説があり閉会となった。閉会後は、大分岡病院の名誉院長　柳澤　繁孝氏より、「ベトナムに於ける口唇口蓋裂患者への医療援助」の演題で講演があった。

（国保組合　桑田　和明）

人吉市歯科医師会

盛会のうちに修了

— 新年会 —

１月16日（金）午後７時よりアンジェリーク平安にて人吉市歯科医師会の新年会が開催された。新年会に先立って記念写真撮影を行った。田中勝久会員の司会により新年会が始まった。まず、與田桂三会長の（米寿のお祝いの花田桂助会員、日本学校歯科医会会長表彰の那須智治会員、入江正昭会員の紹介があった。）会長挨拶では人吉の人口減少、2025年問題、2040年問題もあり、歯科でも在宅介護、在宅歯科診療の話題ばかりで、地方創生に期待しつつ協力していくことや認知症による徘徊に一般市民を巻き込んだ協力が必要であることを述べられた。また連盟監事でもあることから、地方統一選挙、日歯会長選、県歯会長選、来夏の参議院選挙の説明があった。

来賓の金子恭之衆議院議員代理　中村浩実秘書と松村祥史参議院議員代理　緒方良治秘書　溝口幸治県議会議員の出席があった。溝口県議より祝辞とフッ化物洗口が実施段階にはいり来年春には90％（熊本市を除く）を超える予定と報告があった。

花田桂助会員の米寿のお祝いでは体調を考慮して欠席されたため長男の花田雅弘会員よりお礼と趣味のカメラやたまに診療室で昔なじみの患者さんと談笑されたりしている近況報告があった。

豊富な式次第で話題尽きず

日本学校歯科医会会長表彰の那須智治会員、入江正昭会員の挨拶ののち乾杯となった。年男の武末和貴会員による「ひつじ年だけに、ぅめぇー話があるように」の音頭で乾杯し開宴した。アジア杯でサッカー日本代表がイラクを相手に苦しい試合（内容は圧勝）と同時進行で新年会は盛会のうちに終わりを迎えた。

「初めての万歳三唱」の音頭をとることになった愛甲徹専務はいつも以上に飲みまくって、大役をまっとうされた。中原正弘副会長の駄洒落（内容は秘密）の閉会の挨拶にてお開きとなった。

（湯本　光一郎）

下益城郡歯科医師会

喜ばしいサプライズ

— 新年会 —

１月17（土）午後６時半より日航ホテル「弁慶」にて新年会が行われた。今回は珍しく場所を熊本市内での開催ということだったが、出席率高く16名の会員参加で行われた。

吉永会長より新年の挨拶をいただいた後に、西山会員の「昨年も厳しい一年だったが、今年もまだまだ見通しは厳しい。何とか乗り切って行きましょう。」という言葉と共に乾杯のご発声で宴が始まった。窓の外にはライトアップされた熊本城が浮かび、豪華な料理が次々に運ばれる中、和やかに会は進んだ。

その日は偶然にも隣の会場で菊池郡歯科医師会の新年会も開催されており、思わぬところで交流が図れたことは喜ばしいサプライズであった。

宴もたけなわとなった頃ラストオーダーの声が。気が付けば３時間が経過しており最後に山

和やかに杯を重ねる

﨑副会長の一本締めにて閉会となった。昨年は個人には平穏の有難さを噛みしめた一年となった。今年は無事に暮らせるよう祈るばかりである。

（田染　直子）

郡市会報告

山鹿市歯科医師会

各所との連携を深める

― 例会及び新年会 ―

１月17日（土）午後４時より例会及び新年会が山鹿市の寿三ホテルで行われた。

例会では、山鹿歯科医師会神山会長の年頭の挨拶の後、県歯から宮坂圭太副会長が来られ、熊本県歯科医師会と日本歯科医師会の動向について説明された。今回は消費増税分を財源とした医科、歯科の地域医療介護総合確保基金について詳しく話して頂いた。

続いて、旧鹿本郡市歯科医師会の会員でもあり、熊本県歯科医師連盟の牧正仁副会長に話をして頂いた。

新年会では宮坂副会長と連盟の牧副会長の他に、再選後多忙な坂本哲志衆議院議員、中嶋憲正山鹿市長、鹿本医師会幸村克典会長、山鹿地区薬剤師会江上祥一会長、熊本県議会渕上陽一・早田順一両議員、山鹿保健所上野達郎所長に来賓で御参加頂き、挨拶を頂いた。藤原弘山鹿市議会議長に乾杯の御発声を頂き、会が始まった。酒が進むと、普段できないような意見交換ができ、

多勢の方に参加して頂いた

新年会は大いに盛り上がった。

山鹿市歯会武市功雄専務理事が本会、薬剤師会、行政、御互い連携して、今年もこの会に集まった皆様の御健勝と御発展を御祈りして一本締めで会を終えた。

（小林　聡）

玉名郡市歯科医師会

多くの来賓を迎えて開催

― 新年会 ―

１月22日（木）午後６時30分より司ロイヤルホテルにて、来賓22名、会員37名が参加して新年会が開催された。髙﨑専務理事の司会のもと、まず森会長より挨拶があり、「今後超高齢化社会を迎えるにあたり、私たち会員は医療連携を進めて、これまで以上に訪問診療に取り組んで行きましょう。また今年度より玉名市に於いて２校の小学校でフッ化物洗口を開始します。その後すべての小学校で開始する予定となっておりますので、宜しくお願いします。」とあり、次に県歯の渡辺専務理事より「国は地域の中で包括医療を目指しています。現在進めている医療連携が益々重要になってきます。訪問診療において熊本市では２つの医療機関と連携を結んで進めています。他の郡市でもこのような流れを広めて欲しい」と挨拶があった。続いて髙嵜玉名市長、森浩二県議会議員がそれぞれ挨拶され、その中でフッ化物洗口事業が会員の努力と協力で今年度より小学校で開始される事に感謝の言葉を述べられ、更なる協力お願いされた。

玉名郡市医師会平山会長の乾杯の音頭で宴が始まった。余興に入り昨年好評であった髙﨑会

安田会員、春野会員が「コモエスタ赤坂」を熱唱する

員をメンバーとする「ブルースカイ」の生演奏が行われた。今年は安田会員、春野会員のデュエットによる「コモエスタ赤坂」、犬束会員による「青い星屑」の熱唱に会場が和んだ。続いて厚生委員会によるメロン争奪アトラクション「森会長とのじゃんけんゲーム」「くじ引き」が行われた。神崎会員が３年連続で司会を務め、会場を最高潮に盛り上げた。最後に荒尾市歯会山本会長の閉会の挨拶でお開きとなった。

（永廣　有伸）

荒尾市歯科医師会

山本会長が歯周病医療連携を講演

― 荒尾玉名地域糖尿病研修会 ―

２月４日（水）午後７時より玉名市民会館第一会議室において、荒尾・玉名地域糖尿病研修会が開催された。

当日は有明保健所管内の糖尿病保健医療連絡会構成員及び構成機関、団体関係者と医師・歯科医師・薬剤師・看護士等の医療従業者、それと県・郡市の保健行政関係者など糖尿病に携わる各方面の人達約120名が一堂に会し、会場は満席となった。

基調講演として「糖尿病医療の現状」という演題で、公立玉名中央病院の松田浩史内科部長から荒・玉地域の糖尿病患者の実態と現状が語られた。その後、阿蘇郡の薬剤師会及び行政を代表して荒尾市健康生活課参事からそれぞれ活動報告が行われた。さらに熊大病院代謝内科の河島氏を座長として、シンポジウム・意見交換が進められた。その中で、歯科医師の立場から、本会の山本宏会長が「糖尿病・歯周病医療連携について」と題して講演を行った。山本会長は多くのスライドを用いて、その豊富な経験のもと、糖尿病を切り口とした医科歯科医療連携の重要性と歯周病予防のための歯科受診のすすめ

講演された山本会長には聴衆からの大きな拍手が送られた

について分かりやすく説明した。時にユーモアと身振りを交えて、歯周病が糖尿病に及ぼす影響と逆に糖尿病が歯周病に及ぼす影響について熱く語ると熱心に聞いていた万座の聴衆からは大きな拍手が送られた。

口腔ケアの重要性について、深い理解が得られた手ごたえを感じることができ、各関係者にとっても非常に有意義な講演となった。

（原口　泰）

天草郡市歯科医師会

行政と三師会の連携が必要

― 平成27年新年会 ―

１月10日（土）午後５時より天草市のホテルアレグリアガーデンズ天草において、新年会が行われた。天草郡市歯科医師会では平成26年度に上天草市大矢野地区の会員の方々の天草郡市への移管があり、今年の新年会は新たな顔ぶれも見られた。来賓として今年も天草選出の西岡・池田・泉３名の県会議員と上天草選出の県会議員である山口氏、天草市長代理として石井教育長、三師会より酒井医師会会長、北岡薬剤師会会長を来賓としてお招きし、例年通り賑やかな顔ぶれとなった。

最初に、ホテルロビーの広間で記念の集合写真を撮影した後、場所を海の見える会場に移して新年会が始まった。まず山本会長が年頭の挨拶を行い、その後来賓の挨拶をいただいた。挨拶の中でも話が出たが、昨年は天草市内の小中学校では秋までにすべての小中学校においてフッ化物洗口が始まった。この小中学校でのフッ化

大矢野地区の会員も加わり大所帯

物洗口の実施は県議会議員の先生方による議員提案の『熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例』の強い後押しによるものでもあり、新年会に天草郡市歯科医師会は会員だけでなく地域の行政の方々や三師会の会長を招く意義も感じられた。かたい話ばかりではなく、そこは天草の新年会、二次会会場のお店より可愛いコンパニオンにも来てもらい、いつもの楽しい新年会であった。

（内﨑　祐一）

平成27年３月16日

選挙権者　各位
被選挙権者　各位

熊本県歯科医師会
会長　浦田　健二

役員等選挙（理事、監事、日歯代議員および日歯予備代議員の選任）の公示

役員等の任期満了に伴い、平成27年６月20日に開催する定時代議員会終結時から平成29年６月開催の定時代議員会終結時までの任期の理事・監事、平成27年７月１日から平成29年６月30日までの任期の日歯代議員及び日歯予備代議員の選任について、役員等選挙規則、会長予備選挙及び役員等選挙実施要領により次の通り公示する。

【役員等選挙共通】

１．選挙の時期

役員等選挙は、平成27年６月20日（土）に開催する定時代議員会において行う。

２．選挙の定数

理　　事　15名以上20名以内
監　　事　２名以内
日 歯 代 議 員　２名
日歯予備代議員　２名

３．被選挙権者の資格

選挙日において正会員として２年以上在籍した者

４．届出に必要な書類

⑴　理事の選任に関する届出は、次の「理事の選任」に示す。
⑵　監事の選任に関する立候補の届出は、次の「監事の選任」に示す。
⑶　日歯代議員及び日歯予備代議員の選任に関する立候補の届出は、次の「日歯代議員及び日歯予備代議員の選任」に示す。

なお、会長予備選挙及び役員等選挙実施要領に規定する書類が必要。

【理事の選任】

１．会長予備選挙の当選者による届出

会長予備選挙で当選者となった者は、「会長予備選挙及び役員等選挙実施要領」で規定する様式に基づいて、理事候補者（会長予備選挙当選者を含む）の名簿及び候補者ごとの誓約書等を選挙管理委員会に提出する。その場合の届出期間等は次の期間とする。

⑴　届出用紙の配布
①　配布期間　自　平成27年４月16日（木）　至　平成27年４月24日（金）
※ただし、土日祭日は除く。
②　配布時間　午前８時30分から午後５時まで
③　配布場所　熊本県歯科医師会館

⑵　推薦の届出
①　届出期間　自　平成27年４月27日（月）　至　平成27年５月８日（金）
※ただし、土日祭日は除く。
②　届出時間　午前８時30分から午後５時まで
③　届 出 先　選挙管理委員会

２．代議員による届出

代議員は、「会長予備選挙及び役員等選挙実施要領」に基づき、代議員２名以上の賛成者を得て、役員の選任に関する議案の要領を代議員に通知することを請求できる。その場合の届出期間等は次の期間とする。

⑴　届出用紙の配布
①　配布期間　自　平成27年４月16日（木）　至　平成27年４月24日（金）
※ただし、土日祭日は除く。

② 配布時間　午前８時30分から午後５時まで
③ 配布場所　熊本県歯科医師会館

⑵ 推薦の届出
① 届出期間　自　平成27年４月27日(月)　至　平成27年５月８日(金)
※ただし、土日祭日は除く。
② 届出時間　午前８時30分から午後５時まで
③ 届 出 先　選挙管理委員会

３．候補者の辞退期限
平成27年６月10日(水) 午後５時まで

４．代議員会議場内での選挙
① 平成27年６月27日(土) に開催する定時代議員会議場内において投票。
② 選挙権者　代議員

【監事の選任】
１．届出用紙の配布
① 配布期間　自　平成27年５月18日(月)　至　平成27年５月28日(木)
※ただし、土日祭日は除く。
② 配布時間　午前８時30分から午後５時まで
③ 配布場所　熊本県歯科医師会館

２．立候補の届出
① 届出期間　自　平成27年５月29日(金)　至　平成27年６月５日(金)
※ただし、土日祭日は除く。
② 届出時間　午前８時30分から午後５時まで
③ 届 出 先　選挙管理委員会

３．立候補者の辞退期限
平成27年６月10日(水) 午後５時まで

４．投票方法
平成27年６月20日(土) に開催する定時代議員会議場内において投票。

５．選挙権者　代議員

【日歯代議員及び日歯予備代議員の選任】
１．届出用紙の配布
① 配布期間　自　平成27年５月18日(月)　至　平成27年５月28日(木)
※ただし、土日祭日は除く。
② 配布時間　午前８時30分から午後５時まで
③ 配布場所　熊本県歯科医師会館

２．立候補の届出
① 届出期間　自　平成27年５月29日(金)　至　平成27年６月５日(金)
※ただし、土日祭日は除く。
② 届出時間　午前８時30分から午後５時まで
③ 届 出 先　選挙管理委員会

３．立候補者の辞退期限
平成27年６月10日(水) 午後５時まで

４．投票方法
平成27年６月20日(土) に開催する定時代議員会議場内において投票。

５．選挙権者　代議員

６．無投票当選
候補者が定員を超えない場合は、投票を行わないでその候補者を当選とする。

ご　訃　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

吉良　直衛 先生
平成27年２月15日　ご逝去　95歳

- 郡　市　名：熊本市
- 入会年月日：昭和22年８月20日

第３種会員

新入会員 NEW

吉永　恵理佳
（ヨシナガ　エリカ）

宇城市松橋町浦川内824-8

吉永歯科医院

会　務　報　告

自　平成27年１月26日
至　平成27年２月22日

所管	日付	摘要	出席
総　務	１月26日	故岩本將嗣会員（上益城郡）告別式弔辞奉呈（熊本市）	浦田会長
	26日	新財政支援制度（基金）打合せ会 （１）在宅歯科診療器材整備事業	宮坂副会長
	27日	次期日歯会長予備選挙立候補者演説会	浦田会長、小島副会長、渡辺専務理事
	28日	九州地方社会保険医療協議会熊本部会（熊本市国際交流会館）	中嶋副会長
		第20回理事会 【承認事項】（１）新入会員の承認（２）名義後援使用依頼 【議　　題】（１）熊本市医療費助成制度に係る協定書 （２）国保連合会からの保険者間調整に係る委任 （３）高齢者版ベロタッチマニュアルへの名義掲載依頼　ほか 【協議事項】（１）地域医療介護総合確保基金による事業への対応	浦田会長他役員、伊藤学院長
	29日	第２回県歯科技工士国家試験委員会（県庁）	牛島常務理事、井上理事、堀川委員長、片山副委員長
	30日	県医療審議会医療法人部会（県庁）	浦田会長
		社会歯科学研究会打合せ （１）参加者（２）プログラム（３）懇親会	小島副会長、渡辺専務理事、田上・八木・牛島常務理事、井上理事

所管	日付	摘要	出席
総　務	31日	月次監査 12月末現況	久々山・西野監事
		新入会員研修会（施設基準届出に係る研修会） 受講者：96名（新入会員32名、新入会員以外64名）	浦田会長、中嶋副会長、渡辺専務理事、牛島常務理事、冨屋・井上・田中・椿理事、松岡センター長
	2月1日	第8回県医療・保健・福祉連携学会（熊本テルサ）	浦田会長、小島・宮坂副会長、井上理事
	3日	第38回常務理事会 （1）名義後援使用依頼（2）会員からの会費・負担金減免申請の承認 （3）平成26年度熊本県委託事業に係る予算　ほか	浦田会長他常務理事以上全役員
	5日	熊本市歯会北部2支部新年会（熊本市）	浦田会長
	6日	8020支援事業・糖尿病歯周病医療連携検討会（天草地区）（天草市）	田上常務理事
		社会歯科学研究会会長との事前打合せ（熊本市）	浦田会長、小島副会長
	7日	社会歯科学研究会冬期研修会（第1日目） 受講者：87名 セッションⅠ　地域で医療連携を根付かせるために 基調講演講師：熊本機能病院　米満弘之会長 事例報告：リハビリテーション病診連携	浦田会長、小島副会長、渡辺専務理事、田上・八木・牛島常務理事、井上理事他8名
	8日	社会歯科学研究会冬期研修会（第2日目） 受講者：90名 セッションⅡ　医科歯科連携の可能性を探るモン～熊本からの発信～	浦田会長、渡辺専務理事、田上・八木・牛島常務理事、井上理事他12名
		日歯災害歯科コーディネーター研修会（福岡県歯会館）	小島副会長、伊藤学院長
	10日	九州厚生局長新任挨拶来館	浦田会長
		新財政支援制度意見交換会 （1）平成27年度新財政支援制度事業内容	宮坂副会長、松本理事
	12日	支払基金幹事会・新年懇談会（支払基金）	浦田会長
	13日	日歯会長予備選挙における開票立会い（日歯会館）	宮川会員
		第4回県社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会保健福祉推進部会	小島副会長
		本会事業・会計監査 H27.1月末現況監査	久々山・西野監事、浦田会長、中嶋副会長、渡辺専務理事、八木常務理事
	14日	中山秀樹先生熊大歯科口腔外科教授就任祝賀会（熊本ホテルキャッスル）	浦田会長
	16日	会長予備選挙公示	
	17日	第39回常務理事会 （1）新入会員の承認（2）名義後援使用依頼 （3）平成26年度臨時代議員会日程資料　ほか	浦田会長他常務理事以上全役員
	18日	大型コンベンション対応施設の早期整備に関する要望（熊本市役所）	小島副会長
		歯科医師国民年金基金代議員会（東京・パレスホテル）	牛島常務理事
	19日	中規模県歯会連合会会議（アルカディア市ヶ谷）	浦田会長、小島副会長
	20日	会長予備選挙立候補届出受付開始	
		県歯科技工士国家試験実地試験（熊本歯科技術専門学校）	片山副委員長
		第119回都道府県会長会議（日歯会館）	浦田会長、小島副会長
	21日	九州各県会長会（レンプラントホテル大分）	浦田会長
		九地連協議会（レンプラントホテル大分）	浦田会長、小島副会長、渡辺専務理事、田上常務理事、澤田事務局長
	22日	九州各県事務局長連絡会	澤田事務局長
学　術	2月20日	学術委員会 （1）消費増税調査協力依頼（2）第19回歯科医学大会 （3）メーカータイアップ講演会　ほか	井上理事、堀川委員長他全委員
社会保険	2月5日	レセプトチェックセンター（荒尾市） 相談者：1名	田中理事
	12日	保険個別指導（KKRホテル熊本）	渡辺、反後・中村委員
	21日	社会保険委員会 （1）会員向け発行物（2）指導立会日程（3）個別指導対策社保説明会	中嶋副会長、田中・椿理事、清水委員長他11委員
地域保健	1月30日	歯科衛生士会との打合せ会 （1）協会けんぽ・生活歯援プログラム事業	田上常務理事、赤尾・二宮委員
		地域保健委員会 （1）スモールチェンジ生活歯援プログラム	田上常務理事他全委員
	2月1日	特定健診・特定保健指導への歯科関連プログラム導入に向けた意見交換会（日歯会館）	田上常務理事
	3日	日本銀行熊本支店事業所健診（日本銀行熊本支店） 受診者：27名	津田会員
	5日	青山製作所熊本工場事業所健診（高森町） 受診者：7名	片山会員
	12日	青山製作所熊本工場事業所健診（高森町） 受診者：7名	片山会員
	20日	歯科衛生士会との打合せ会 （1）協会けんぽ・生活歯援プログラム事業	田上常務理事、赤尾・二宮委員

所管	日付	摘要	出席
広　報	1月29日	NHKテレメッセ収録（NHK熊本放送局） （1）2月12日(木）放映分	加藤理事
	30日	広報小委員会 （1）会報2月号・第2回校正	加藤理事、佐藤委員長他1委員
	2月16日	広報委員会 （1）会報3月号・編集	加藤理事、佐藤委員長他4委員
学校歯科	2月10日	第2回県学校保健会総務委員会	浦田会長
	13日	県高等学校保健会第3回理事会（熊本北高等学校）	宮坂副会長
	18日	日学歯加盟団体長会（日歯会館）	浦田会長
	19日	県PTA共済審査委員会（県総合福祉センター）	西野監事
医療対策	2月13日	県医療安全研修会（宇城地域研修会）（宇城総合病院）	冨屋理事
	18日	医療対策委員会 （1）事例報告検討（2）熊大歯科口腔外科連絡協議会（3）委員提出協議題　ほか	冨屋理事、岡田委員長他全委員
センター・介護	1月29日	委託事業打ち合わせ 衛生士会と委託事業について打ち合わせ	松本理事、平井委員長、山田副委員長、衛生士会越川専務理事、片山理事
	31日	在宅歯科医療推進事業施設実習（口腔リハビリテーション多摩クリニック）	宮坂副会長、松本理事
	2月3日	センターカルテ・会計チェック	松岡センター長
	5日	在宅歯科医療推進事業施設実習（口腔リハビリテーション多摩クリニック）	松岡センター長、柴田衛生士
	7日	第4回在宅歯科医療研修会 講師：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科　老化制御学系口腔老化制御学講座高齢者歯科学分野　准教授　戸原　玄先生、長崎大学病院特殊歯科総合診療部　三串伸哉先生 受講者：29名	宮坂副会長、松本理事、平井委員長他5委員
	8日	第5回在宅歯科医療研修会 講師：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科　老化制御学系口腔老化制御学講座高齢者歯科学分野　准教授　戸原　玄先生、長崎大学病院特殊歯科総合診療部　三串伸哉先生 受講者：32名	宮坂副会長、松本理事、平井委員長他5委員
		委託事業打ち合わせ	宮坂副会長、田上常務理事、松本理事、平井委員長他5委員
	13日	障がい児（者）口腔ケア地域リーダー育成事業研修会 講師：松本歯科大学　小笠原正教授、九州看護大学口腔保健学科　筒井　睦准教授 受講者：74名	浦田会長、小島副会長、田上常務理事、松本理事他7委員
	14日	障がい児（者）地域リーダー育成事業歯科健診（指定障害者支援施設さくら学園） 受信者：34名	宮坂副会長、平井委員長、木下・武市・野上会員（山鹿市）
		介護者歯科実技研修会（天草会場）（県天草広域本部） 講師：黒岩恭子先生（村田歯科医院〔神奈川県〕院長） 受講者：90名	松本理事、井手委員、天草郡市森口副会長、矢筈荘松岡施設長、奥村歯科衛生士、歯科衛生士会8名
	15日	介護者歯科実技研修会（熊本会場）（県総合福祉センター） 講師：黒岩恭子先生（村田歯科医院〔神奈川県〕院長） 受講者：106名	宮坂副会長、渡辺専務理事、松本理事他5委員、矢筈荘松岡施設長、奥村歯科衛生士、歯科衛生士会10名
	17日	県老人クラブ連合会「健康・生きがいづくり支援事業推進委員会」（県総合福祉センター）	宮坂副会長
	18日	熊本地域リハビリテーション支援協議会総会・特別講演（県医師会館）	松本理事
	19日	在宅歯科医療推進事業施設実習（口腔リハビリテーション多摩クリニック）	今藤・井手委員
	21日	障がい児（者）地域リーダー育成事業歯科健診（児童デイサービスセンターわいわいなかま）	松本理事、山田副委員長、井手委員、上益城・江藤会長
総務・厚生・医療管理	1月26日	総務・厚生・医療管理委員会 （1）医療管理だより（2）社会歯科学研究会（3）医療管理講演会　ほか	牛島常務理事、池嶋委員長他5委員
	2月14日	都道府県医療管理担当理事連絡協議会及び歯科衛生士復職支援対策連絡協議会（日歯会館）	八木常務理事
	14日	医療管理講演会 講師：岩﨑小百合先生 「継続通院したくなる歯科医院のスタッフ育成計画～スタッフの採用から教育まで～」 受講者：49名	浦田会長、牛島常務理事、池嶋委員長他3名
	19日	医科歯科病診連携事業運営協議会	渡辺専務理事、八木・牛島常務理事
	20日	がん連携運営研修会（山鹿市民医療センター）	牛島常務理事、山鹿歯会・神山会長
学　院	1月31日	学院戴帽式 第50期生：53名 来賓：10名	浦田会長、伊藤学院長他3名
	2月7日	学院一般一次・社会人入学試験 一般一次10名、社会人5名	伊藤学院長他1名
	10日	学院入学試験委員会	浦田会長、伊藤学院長他5名
	14日	学院一般一次・社会人入学試験合格者発表	
	22日	第1回歯科衛生士リカバリー研修会 受講者：18名	牛島常務理事
国保組合	1月30日	第5回国保理事会 （1）平成26年度補正予算（案）（2）規約一部改正（案） （3）平成27年度役職員退職手当積立金の処分　ほか	浦田理事長他全役員
	2月3日	国保組合共通システムの導入に関する説明会（東京・スクワール麹町）	塩山係長
	6日	全協事務（局）長研修会（東京・全国町村会館）	田代課長補佐
	16日	国保組合監査	原田・片山監事、浦田理事長、桑田常務理事
		第6回国保理事会 （1）平成26年度通常組合会日程（追加議題）国民健康保険料未納組合員の除名	浦田理事長他全役員、田中議長、犬束副議長
	19日	全協理事会（東京・都市センターホテル）	浦田理事長

会員専用グループ保険のご案内

随時加入募集中!!

グループ保険　Ⅰ 団体定期保険　Ⅱ 新医療保障保険団体型

Ⅰ 団体定期保険

充実した保障内容
合理的な 死亡保障 の確保に！

① 割安な保険料で高額保障
災害に起因する死亡の場合は、災害保険金が上乗せされます。

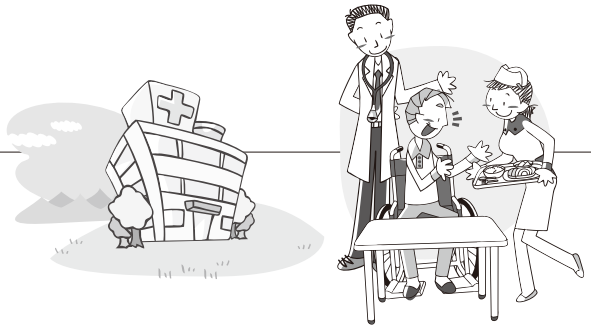
② 高度障害保険金･障害給付金も準備されます

③ 最高 75歳まで継続更新可能

④ 入院給付金（傷害のみ）の保障もあり

35年以上の長期にわたり、熊本県歯科医師会で会員のために継続している福利厚生制度です。

随時加入できます



Ⅱ 新医療保障保険団体型

ニーズの高い病気入院の保障が
低価格でプラスできます！

① 疾病・傷害、いずれも保障の対象！

② 入院給付金は１日目からお支払します

③ 通算 1,000日分の入院給付金のお支払（１入院は60日まで）

④ 最高89歳まで継続更新可能

⑤ 配偶者･お子様もご加入可能

この保険は当グループ内で１年ごとに収支計算を行ない剰余金が生じたときは配当金として加入者全員に還元しています。

お問い合わせ

熊本県歯科医師会 事務局　担当：田尻　TEL096-343-8020

Kumamoto Prefecture Dentistry Medical Association Report
March 2015 No.707

笑顔ヘルC 8020歯からはじめる

4 行事予定 April

7日(火)	第42回常務理事会
10日(金)	学院入学式
15日(水)	第43回常務理事会
22日(水)	第23回理事会

くまもとサプライズキャラクター『くまモン』
©2010 熊本県くまモン #1086

熊本県歯科医師会
安心・安全歯科医療推進制度

編集後記

朝晩はまだ肌寒さはあるが日中は暖かくなり、桜の開花も待遠しい時期になりました。春を迎えるこの時期は私にとって、毎日が憂鬱です。目がかゆく、くしゃみ、鼻水という症状で20年以上花粉症に悩まされています。毎年なんとかならないかとテレビや雑誌で紹介された如何にも効きそうな対策を試してみますが（例えばヨーグルトを食べたり、ハーブティーやお茶などを飲んだりと、、、、）全く効果がなく、結局は薬に頼っている次第です。薬がなければどうなるの？という感じです。花粉が多いと予想される年は、１月下旬から予防的に薬を飲んでいて、毎年花粉が飛び始める前に薬を服用しています。２月の中旬から終わりにかけてニュースや新聞などで花粉が飛び始めたとの情報を聞いても症状が出ないと、今年は症状を薬で抑えられて、もしくは体質が改善して大丈夫なのでは？と毎年思いますが、、、、、、そんな事はなく３月には薬が効かない日が連日続き３月、４月と憂鬱で不快な日々を過ごします。雨の日が唯一快適に過ごせるので、毎日雨が降らないかと願っています。余談ですが今年から甥っ子が薬学部に入るので特効薬を作って欲しいと切に願います。

（Y．N）

■発行日／2015年3月16日発行 ■発行人／浦田 健二
■発行所／一般社団法人 熊本県歯科医師会
〒860-0863 熊本市中央区坪井2丁目4番15号
TEL／096-343-8020 FAX／096-343-0623
URL／http://www.kuma8020.com
■印刷所／コロニー印刷